



項目	北浦
湖岸線 (km)	75
湖面積 (km <sup>2</sup> )	36.2
流域都道府県	茨城県
類型指定告示年月日	昭和47年11月6日
主要流入河川	雁通川・葦川・山田川・武田川・巴川・銚田川

北浦 (全域)  
水質類型 湖沼A

(湖沼III類型)

水質環境基準の類型	
湖沼COD	
AA:	
A:	
B:	
C:	

湖沼N・Pは ( )  
内を赤字提示。

北浦【水質汚濁に係る  
環境基準の類型指定状況】

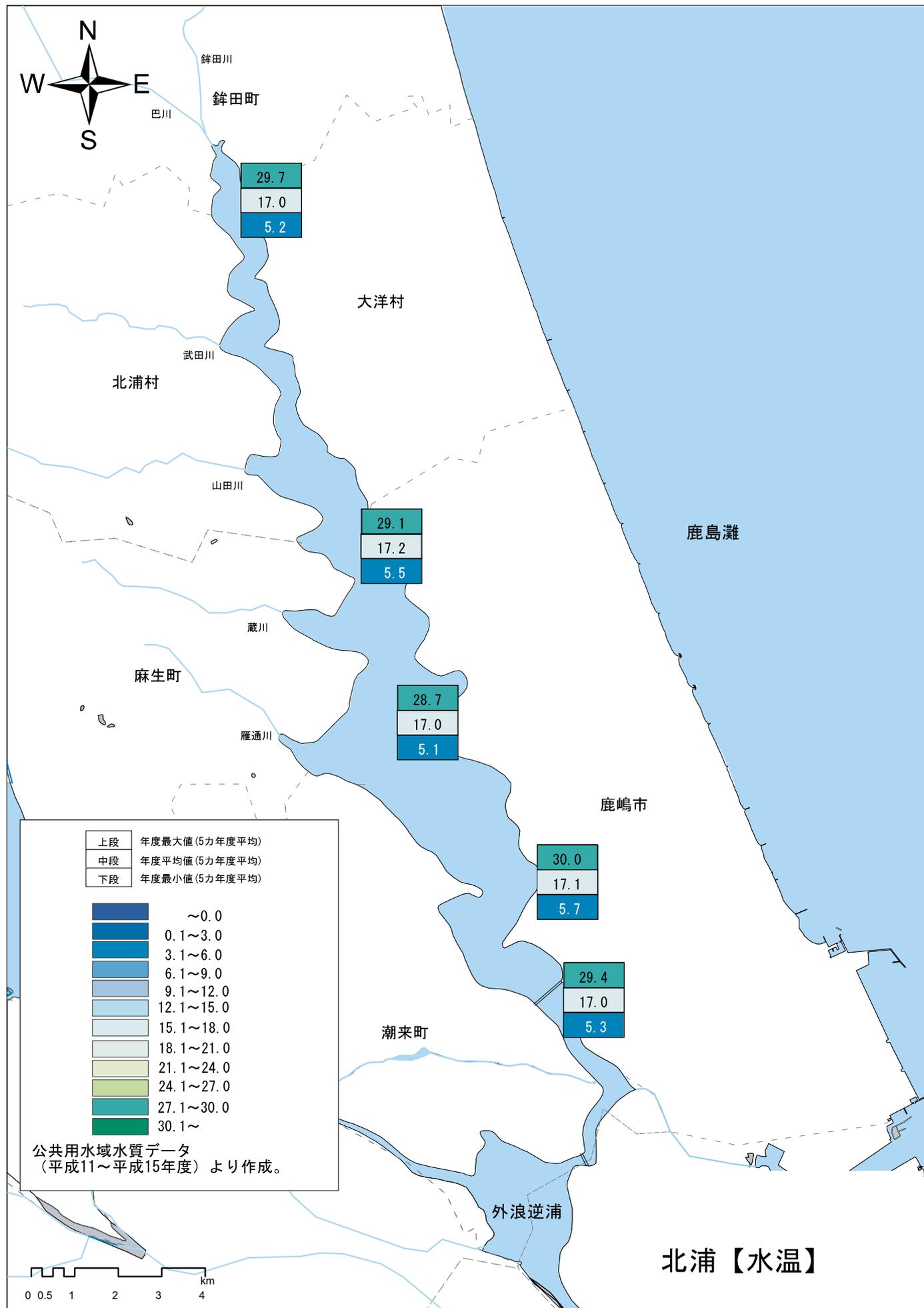
## 【近年の水質状況】

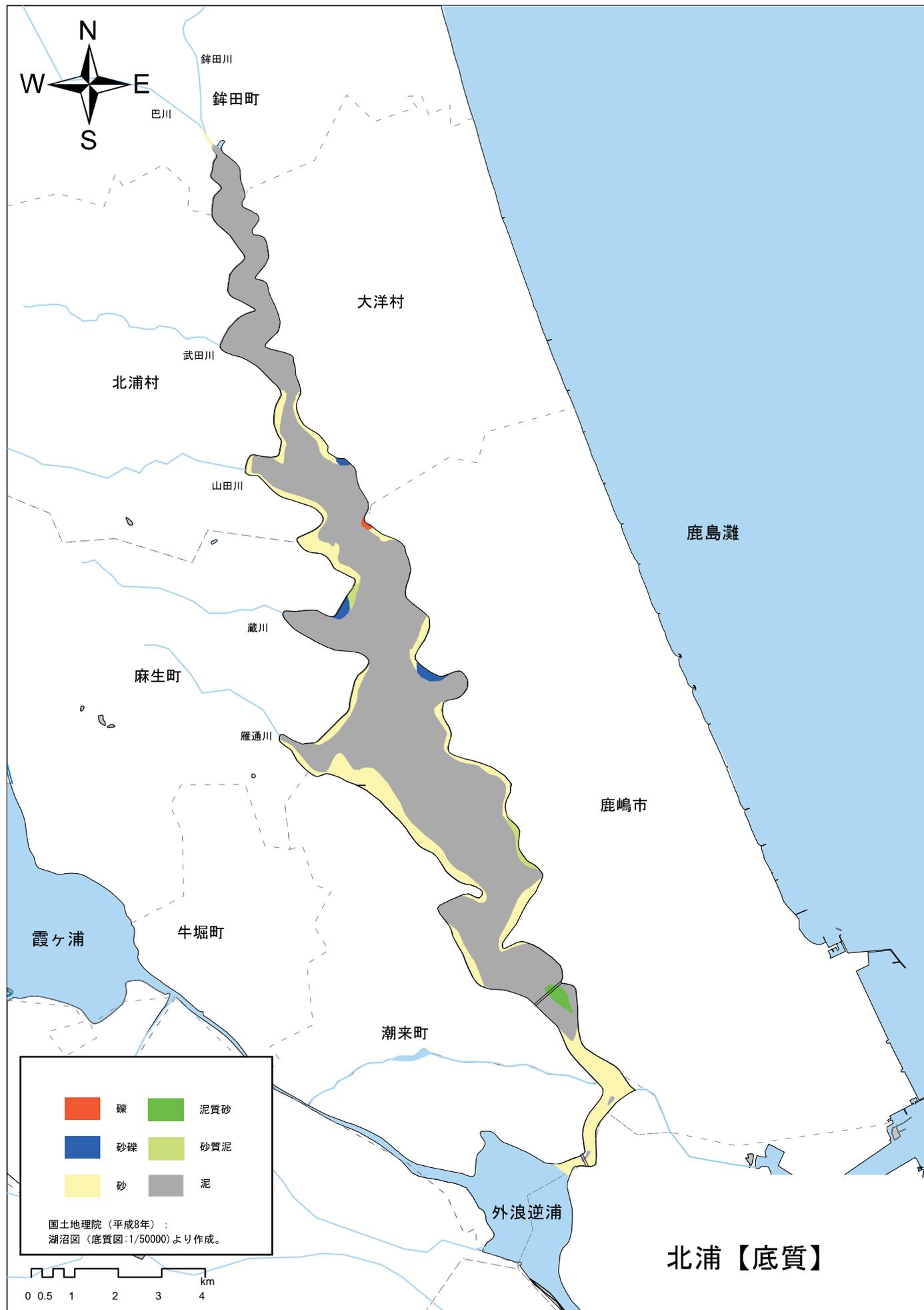
水系名	類型	環境基準点	年度	COD(mg/l)				pH		
				最小 ~ 最大	平均	75%値	基準値	最小 ~ 最大	基準値	
北浦	A	釜谷沖	H15	5.9 ~ 8.6	7.4	8.1	3	7.7 ~ 9.1	6.5 ~ 8.5	
			H14	6.2 ~ 9.9	7.6	7.6		7.6 ~ 8.9		
			H13	6.4 ~ 9.5	8.4	9.0		7.5 ~ 8.7		
		神宮橋	H15	5.8 ~ 9.9	7.9	8.5		7.9 ~ 8.9		
			H14	6.6 ~ 10	8.0	8.7		7.7 ~ 8.7		
			H13	7.4 ~ 9.7	8.6	9.3		7.6 ~ 8.2		

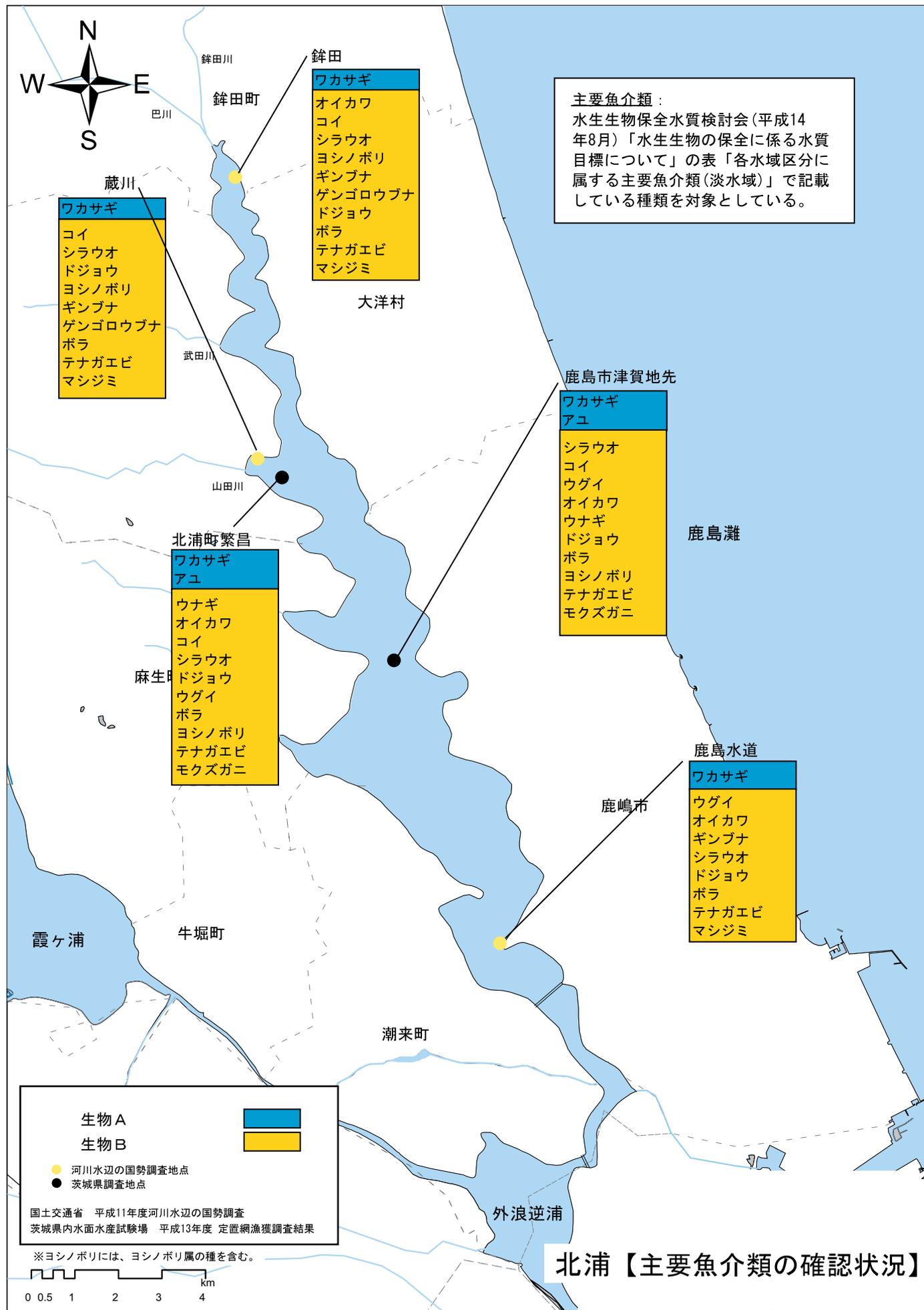
環境基準点	年度	DO(mg/l)			SS(mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
		最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
釜谷沖	H15	8.1 ~ 12	10	7.5	10 ~ 19	15	5	23 ~ 790	130	1,000
	H14	10 ~ 12	11		7 ~ 19	12		4 ~ 2,300	270	
	H13	8.3 ~ 13	11		9 ~ 18	13		2 ~ 3,500	320	
神宮橋	H15	7.8 ~ 12	10		14 ~ 57	30		49 ~ 240	110	
	H14	9.8 ~ 14	11		7 ~ 29	20		94 ~ 2,300	700	
	H13	8.2 ~ 12	10		16 ~ 31	22		4 ~ 13,000	2,500	

水系名	類型	環境基準点	年度	全窒素(mg/l)			全磷(mg/l)		
				最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
北浦		釜谷沖	H15	0.59 ~ 1.2	0.86	0.4	0.048 ~ 0.18	0.09	0.03
			H14	0.65 ~ 1.2	0.85		0.049 ~ 0.21	0.09	
			H13	0.73 ~ 1.2	0.88		0.062 ~ 0.25	0.10	
		神宮橋	H15	0.62 ~ 1.2	0.89		0.062 ~ 0.17	0.11	
			H14	0.69 ~ 1.1	0.87		0.056 ~ 0.18	0.10	
			H13	0.70 ~ 1.1	0.88		0.069 ~ 0.17	0.10	

(出典: 公共用水域の水質測定結果)







北浦魚介類出現状況(1/2)

項目・分類・科・種名		調査地点		銚田	蔵川	北浦町繁昌	鹿島市津賀地先	鹿島水道	
生物A	魚類	キュウリウオ科	アユ						
		キュウリウオ科	ワカサギ						
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ						
		サケ科	シラウオ						
		コイ科	オイカワ						
		コイ科	ウグイ(属)						
		コイ科	コイ						
		コイ科	ギンブナ						
		コイ科	ゲンゴロウブナ						
		ドジョウ科	ドジョウ						
		ボラ科	ボラ						
		ハゼ科	ヨシノボリ類(ヨシノボリ属)						
		ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)						
		甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ					
			イワガニ科	モクズガニ					
		貝類	ヤマトシジミ科	マシジミ					
	対象外	魚類	コイ科	ハス					
コイ科			アブラハヤ						
コイ科			ワタカ						
コイ科			ハクレン						
コイ科			タモロコ						
コイ科			モツゴ						
コイ科			ヒガイ						
コイ科			ヒガイ属						
コイ科			ピワヒガイ						
コイ科			ニゴイ						
コイ科			キンブナ						
コイ科			フナ属						
コイ科			タイリクバラタナゴ						
コイ科			タナゴ						
コイ科			タナゴ属						
コイ科			アカヒレタビラ						
ナマズ科			アメリカナマズ						
サヨリ科			クルマサヨリ						
タイワンドジョウ科			カムルチー						
ボラ科			ベヘレイ						
スズキ科			スズキ						

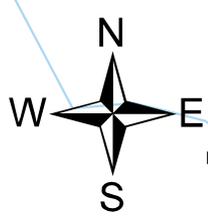
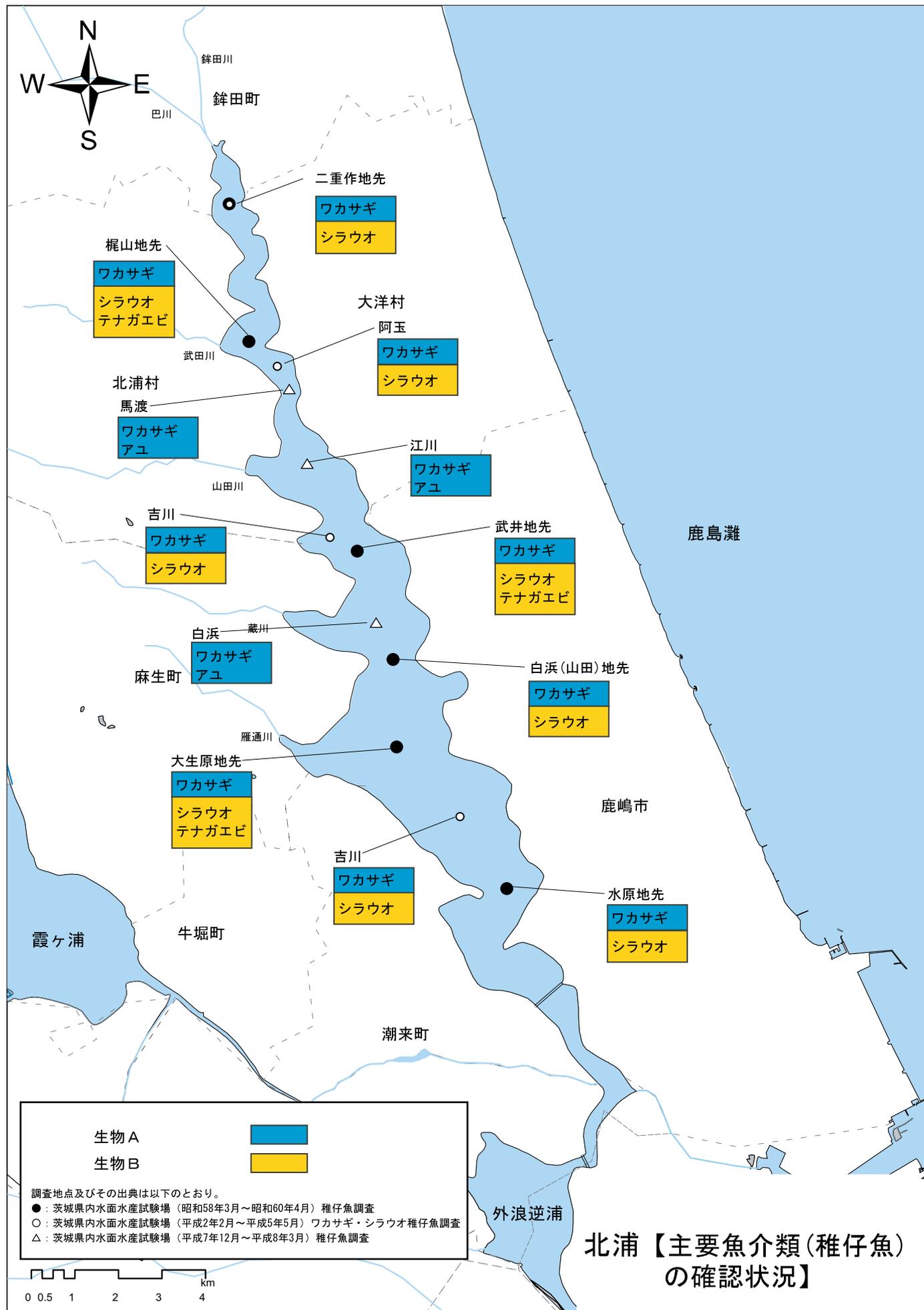
北浦魚介類出現状況(2 / 2)

項目・分類・科・種名		調査地点	銚田	蔵川	北浦町繁昌	鹿島市津賀地先	鹿島水道
魚類	バス科	オオクチバス					
	バス科	ブルーギル					
	ハゼ科	アシシロハゼ					
	ハゼ科	ウキゴリ					
	ハゼ科	ジュズカケハゼ					
	ハゼ科	チチブ属					
	ハゼ科	ヌマチチブ					
	ハゼ科	ハゼ科					
	ハゼ科	マハゼ					
	甲殻類	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ				
貝類	イシガイ科	イシガイ					
	イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)					
	カワニナ科	ヒタチチリメンカワニナ					
	サカマキガイ科	サカマキガイ					
	タニシ科	ヒメタニシ					

分類体系は山溪カラー図鑑日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出典:  
調査機関・名称・年度

国土交通省、河川水辺の国勢調査、1999年夏・秋・春調査  
茨城県内水面水産試験場、定置網漁獲調査、2001/4～2002/1までの各月調査



銚田川  
銚田町  
巴川

二重作地先  
ワカサギ  
シラウオ

梶山地先  
ワカサギ  
シラウオ  
テナガエビ

大洋村  
阿玉  
ワカサギ  
シラウオ

北浦村  
馬渡  
ワカサギ  
アユ

江川  
ワカサギ  
アユ

吉川  
ワカサギ  
シラウオ

武井地先  
ワカサギ  
シラウオ  
テナガエビ

白浜  
蔵川  
ワカサギ  
アユ

白浜(山田)地先  
ワカサギ  
シラウオ

大生原地先  
ワカサギ  
シラウオ  
テナガエビ

吉川  
ワカサギ  
シラウオ

水原地先  
ワカサギ  
シラウオ

霞ヶ浦

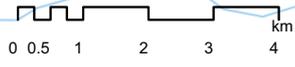
牛堀町

潮来町

外浪逆浦

鹿島灘

鹿嶋市





北浦の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者への  
ヒアリング結果の整理（案）

対象ゾーン	流域全般
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「資料」の出現魚種で概ね妥当。</li> <li>・ 湖全体にワカサギ・シラウオ・テナガエビ等が生息している。</li> <li>・ 1992年以降、アユの生息が確認され、主に北浦北部に生息する。</li> </ul>
再生産に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワカサギ及びシラウオの産卵場は沿岸の砂場であり、水深が1m前後(1m数十cm程度)が最適。</li> <li>・ ワカサギは放流個体より再生産個体の割合が大きい。</li> <li>・ アユは北浦北部の銚田周辺で再生産している。</li> <li>・ 水産資源保護法に基づく2カ所の保護水面と県漁業調整規則に基づく2カ所の禁止区域が設定され、一切の漁業が禁止。</li> <li>・ 砂地・ヨシ原が減少する中、近年、外来魚が多くなり、在来種の産卵・生育場所が減少している。</li> <li>・ ヨシ原は魚類の生育場及び産卵場として重要。</li> </ul>
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワカサギ、ウナギ、フナ等を放流している。</li> <li>・ 放流ワカサギは繁殖成魚を採取して受精卵、あるいは種苗個体を放流したり、外国産の稚魚を放流している。</li> </ul>
湖沼環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワカサギ・シラウオ再生産の観点から見ると、緩傾斜の遠浅砂地が重要であり、ヨシ原など抽水性植物帯だけでは足りない。</li> <li>・ 国土交通省・NPO等さまざまな機関において、魚の生息場及び産卵場を拡大するため、ヨシ植栽事業・浅場造成事業等実施している。</li> </ul>
過去の情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かつて北浦湖岸は砂地の緩傾斜であったが、約30年前に全湖岸を埋立し、防潮堤を構築したことで緩傾斜地が少なくなり、現在は砂地・ヨシ原域が減少した。</li> <li>・ 霞ヶ浦・北浦はこれまで淡水・汽水・海産魚等多彩な種類の魚類が確認されたが、治水・塩害防止を目的とした常陸利根川水門の完全閉鎖（1974年）により両湖の淡水化が進み、汽水魚・海産魚の多くが姿を消しているおり、近年は外来種のブルーギル（昭和40年代松末）、オオクチバス（平成3年頃確認）。</li> <li>・ 既往確認全種34科80種（1885年～1994年） 霞ヶ浦・北浦での近年確認種18科47種（1973年～1978年）。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茨城県では保護水面等において毎年生物調査を行っており、3年に1回、保護水面管理報告書（茨城県水産振興課）として産卵場調査結果が発行されている。</li> </ul>



北浦(右岸)の状況



北浦（左岸）の状況